

チャレンジ！！オープンガバナンス 2017 市民／学生応募用紙

地域課題タイトル (注1)	No.	タイトル	自治体名
	- (事務局用)	「ピンチをチャンスに！」空き家・空き店舗を活用した 移住定住促進事業	八幡浜市
アイデア名 (注1) (公開)	Do It Yourself ～環境にやさしい街をわたしたちの手でつくる～		

(注1) 地域課題タイトルは、COG2017 サイトの中に記載してある応募自治体の地域課題名を記入してください。

(注2) アイデア名は各チームで独自にアイデアにふさわしい名前を付けてください。

1. 応募者情報

チーム名 (公開)	八幡浜活性化プロジェクト		
チーム属性 (公開)	<input type="radio"/> 1. 市民によるチーム	<input checked="" type="radio"/> 2. 学生によるチーム	<input type="radio"/> 3. 市民、学生の混成によるチーム
メンバー数 (公開)	2 名		
代表者情報	氏名 (公開)	金山 遥斗	

(注意書き) ※ 必ず応募前にご一読ください。

<応募の際のファイル名と送付先>

1. 応募の際は、ファイル名を COG2017_応募用紙_具体的チーム名_該当自治体名にして、以下まで送付してください。東京大学公共政策大学院の COG2017 サイトにある応募受付欄からもアクセスできます。 admin_padit_cog2017@pp.u-tokyo.ac.jp

<応募内容の公開>

2. アイデア名、チーム名、チーム属性、チームメンバー数、代表者氏名、「アイデアの説明」は公開されます。
3. 公開条件について：

「アイデアの説明」でご記入いただく内容は、クリエイティブ・コモンズの CC BY (表示) 4.0 国際ライセンスで、公開します。ただし、申請者からの要請がある場合には、CC BY-NC (表示-非営利) 4.0 国際ライセンスで公開しますので、申請の際にその旨をお知らせください。いずれの場合もクレジットの付与対象は応募したチームの名称とします。

(具体的なライセンスの条件につきましては、<https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/legalcode.ja>、および、<https://creativecommons.org/licenses/by-nc/4.0/legalcode.ja> をご参照ください。また、クリエイティブ・コモンズの解説もあります。<https://creativecommons.jp/licenses/>)
4. 上記の公開は、内容を確認した上で行います。(例えば公序良俗に違反するもの、剽窃があるものなどは公表いたしません)
5. この応募内容のうち、「審査項目自己評価」は、非公開です。なお、内容に優れ今後の参考になりうると判断したものは、公開審査後アドバイスの段階で相談の上公開することがあります。

<知的所有権等の取扱い>

6. 「アイデアの説明」中に、応募したチームで作成・撮影したものではない文章、写真、図画等を使用する場合、その知的所有権を侵害していないことを確認してください。具体的には、法令に従った引用をするか、や知的所有権者の許諾を取得し、その旨を注として記載してください。「審査項目自己評価」中も同様をお願いします。
7. 「アイデアの説明」中に、人が写りこんでいる写真を使用している場合、使用している写真に写りこんでいる人の肖像権またはプライバシーを侵害していないことを確認してください。

<チームメンバー名簿>

チームメンバーに関する情報を最終ページに記載して提出してください。(2. の扱いによる代表者氏名を除き、他のメンバーに関する情報は本人の同意があるものを除き COG 事務局からは非公開です。詳細は最終ページをご覧ください。)

2. アイデアの説明（公開）

（1）アイデアの内容、（2）アイデアの論拠、（3）実現までの流れ、の三項目に分けて記入してください。

（1）アイデアの内容（公開）

アイデアは、だれが、何を、どこで、いつ、どのように、する公共サービス（活動）なのか、これらの要素を入れて内容そのものをわかりやすく示してください。1 ページ以内でご記入ください。（必要に応じて図表を入れても構いません）

Do It Yourself

～環境にやさしい街を私たちの手でつくろう～

私たちの住む八幡浜市は、人口減少が顕著です。

特に、中心市街地の衰退が急速に進行し、空き家や空き店舗が増えています。

中心市街地が衰退している理由の一番は、「駐車スペースがない。車で買い物に行けない。」ことだと考えます。

そこで、『道の駅・みなとオアシス「八幡浜みなと」』を起点とした、まちの回遊性・活性化を軸に空き店舗・空き家の再生を考えました。さらに、商店街の活性化を目指し、移動商店街の実施を計画しました。

◎「八幡浜みなと」に立ち寄り → ◎商店街へ買い物 → ◎黒湯温泉あり

- ・駐車スペースあり
- ・レンタサイクル（ヘルメット付）の充実
- ・イベントは今まで以上に充実させ、
点から線、線から面へ

「八幡浜みなと」のイベント

- ・釣り大会、釣った魚の料理教室（レシピの公開）
- ・クリスマスツリーのイルミネーションでデートスポット
- ・三世代交流として、お正月のしめ縄づくり・餅つき大会

◎空き家・空き店舗の活用

① D I Y 教室の開催

- ・空き家・空き店舗を利用して D I Y 教室の開催
（地元の建築業者やホームセンターに協力要請）
- ・D I Y した空き店舗で、雑貨等を販売
- ・D I Y 教室で快適に過ごせるようになった家・店舗を貸し出す
 - 短期で学生に貸し出す → 出店
 - 移住を考えている人に貸し出す → 期間限定のレンタル
- ・都会の I T 企業に空き店舗を無料で提供

② 商店街の空き家・空き店舗を駐車スペースに変更

- ・将来的には、立体駐車場や地下駐車場をつくる → 地下駐車場は「シェルター」となる

③ 商店街の空き家・空き店舗をシェアハウスとして利用 → 八幡浜市在住の外国人に貸し出す

A L T の先生 → 食事の場所などもあり、便利

A L T の先生 → 小中学生に英会話を指導

小中学生の学力向上を目指す

八幡浜のよさを世界に発信できる

最終的に

商店街の空き家・空き店舗の活用 → リフォーム → リノベーションへ発展

看護専門学校の誘致を予定 → 商店街のシェアハウスを学生に賃貸 → 商店街の活気が戻る

(2) アイデアの論拠（公開）

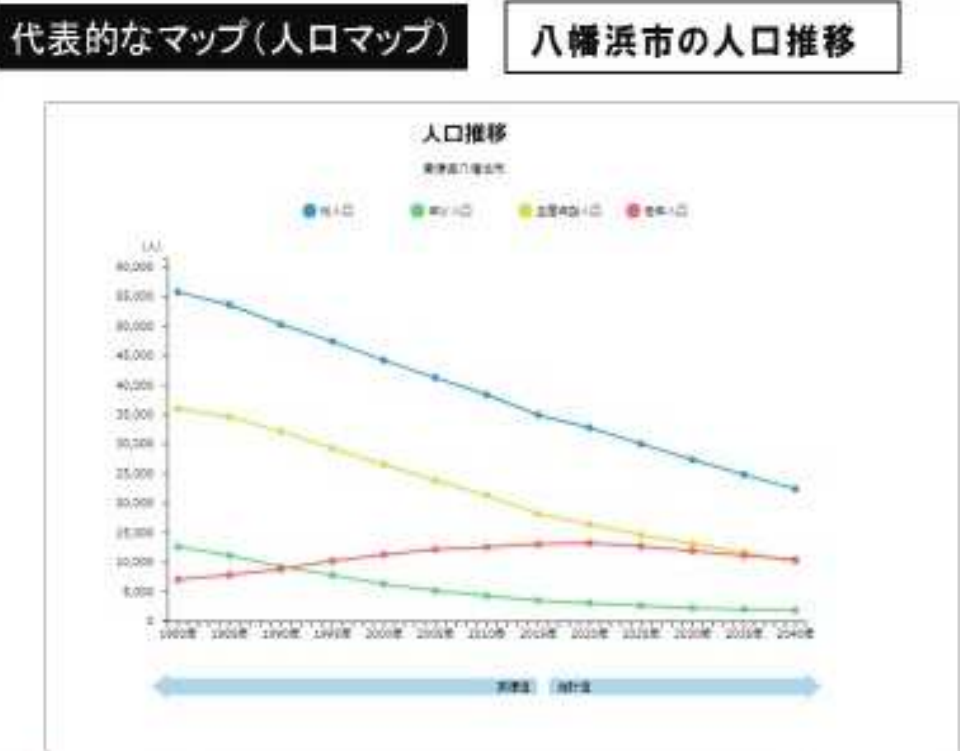
アイデアの論拠（なぜこのアイデアなのかの理由付け）について、それをサポートするデータ（統計類の数値データやアンケート・インタビューなどの定性データ）や証拠（資料や計画、既存の施策など）（以下：総称して「データ類」といいます）などを含めつつ、**2 ページ以内**でご記入ください。データ類は出所を明らかにしてください。

1 八幡浜市の課題

[現在の状況]

① 人口の減少

2015 年の 34,951 人が、2040 年には 22,438 人となり、35%の減少となる。



出典：資料「八幡浜市の観光・交流活性化に向けて」 / いよざん地域経済研究センター

② 中心市街地の

松蔭地区の人口予測

今から 30 年後の 2047 年には松蔭地区の人口は 39%減少し、高齢化率は 51%となる。

商店街に人を集めて活性化を目指したい。



出典：資料「八幡浜市人口対策キックオフ講演会」

③ 商店街の空き店舗率の上昇

中心市街地の商店街の中で、特に新町商店街・銀座商店街の空き店舗率が高いことが分かる。これは、駐車スペースがほとんどない2つの商店街の空き店舗率が高いのではないかと考えられる。そのため、少しのスペースを利用して、駐車場をつくるなど、できることから実施していく。また、スマホアプリを利用して、駐車場の利用状況を発信していく。

平成29年度 四商店街「空き店舗率」集計一覧表

区 分	新町商店街振興組合		銀座商店街振興組合		千代田町商店街		大黒町商店街		計	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合	件数	割合	件数	割合
営業店舗	56	58.95%	44	53.66%	27	72.97%	25	65.79%	152	60.32%
空き店舗	39	41.05%	38	46.34%	10	27.03%	13	34.21%	100	39.68%
住宅	8	—	4	—	10	—	10	—	32	—
寺社、集会所、倉庫等	3	—	1	—	1	—	0	—	5	—
駐車場	4	—	3	—	2	—	7	—	16	—
公園、休憩所、多目的広場	1	—	1	—	0	—	0	—	2	—
無活用の空き地、田畑	4	—	0	—	0	—	3	—	7	—
計	115	100.00%	91	100.00%	50	100.00%	58	100.00%	314	100.00%

出典：八幡浜市商工観光課実地調査（H28）

2 解決策

- ① 空き家・空き店舗をD I Yからリフォーム、そしてリノベーションへ
- ② みなつとの集客を商店街や黒湯温泉へ拡大させる

(3) アイデア実現までの流れ（公開）

アイデアを**実現する主体**、アイデアの**実現に必要な資源（ヒト、モノ、カネ）**の大まかな規模とその現実的な調達方法（制約がある場合にはその解決策を含む）、アイデアの**実現にいたるプロセスとマイルストーン**等、アイデア実現までの大まかな流れについて、**2 ページ以内**でご記入ください。（必要に応じて図表を入れても構いません）

小さなことから大きなことへ

～まずはできることから始めよう～

第1ステップ



- だれでも簡単にできるD I Y教室 資金面は行政や商店街の協力を得る
- D I Yした空き店舗が若者や地域の交流の場に
- 商店街の商品を車で販売する「移動商店街」の実施
（高齢者の多い地域や高齢者施設に移動販売）
- 軌道にのれば、クラウドファンディングで、資金を調達

第2ステップ



- 商店街のリフォーム 得られた資金をもとに、空き店舗のリフォームを進める

第3ステップ

- 商店街のリノベーション
- 最終的に、空き家・空き店舗をシェアハウスとして利用
- 都会の I T 企業の店舗として
- 八幡浜市在住の A L T の先生に
- 将来的に、専門学校生に